

# 「ありがとう」心込め演奏 岩手・大槌高生 支援のお礼



感謝を込めて演奏する岩手県立大槌高の生徒たち（広島市中区で）

東日本大震災で被災した岩手県立大槌高の吹奏楽部の生徒14人が18日、広島県内の学校から贈られた文房具の支援に感謝の思いを込め、広島市中区で「絆コンサート」を開いた。「涙そうそう」など5曲を披露、県立安古市高の吹奏楽部との共演もあり、大槌高の生徒らは「復興に向けて動き出している気持ちが伝わるように演奏した」と振り返っていた。

被災地でも活動する国際

医療NGO「AMDA（アマダ）」（岡山市）の仲介で実現した。震災直後の昨年4月、県内の110校がノートなどの文房具を集めて、大槌高など岩手県内の学校に贈った。県立福山誠之館高と県立黒瀬高の生徒計4人は大槌高を訪れ、ボランティア活動をするなどした。

この日、吹奏学部長の2年台隆裕さん（17）が、約600人を前に、体育館や校舎が避難所として使われた当時の様子をスライドで紹介。「部活動ができる状態ではなかったが、皆さんの支援でまた演奏ができるようになった」とお礼を述べた。